

11-12 S. 69

S.

1, 6, 1, 5, 29

1-93

自昭和三年六月
至同四年十月

支那内乱關係一件
各地暴動關係

目次

一般

(1) 龍口事件 (居留民保護及軍艦派遣, 會)

自昭和四年一月

(2) 蕪湖兵變 (居留民保護及陸戰隊揚陸, 會)

自昭和四年十月

(3)

自昭和四年

(4)

自昭和四年

(5)

自昭和四年

朝鮮亞同

公第三四六師

昭和三年六月十五日

第三師

在海龍

分館主任坂内彌代



昭和三年六月廿日接受



外務大臣野田中 義一殿

北山城子駐在支那軍隊行動ニ關スル件

目下北山城子ニ駐屯ナル東北補充旅騎兵第三十八團、兵士等ガ日市中ヲ徘徊シ日支開戦ヲ高唱シ在留内鮮人ヲ惡罵シ侮辱ヲ加ヘツツアルコトハ既報ノ通ナルカ六月十二日ニ至ルヤ兵士中在留民ノ居室ニ侵入シ所持ノ拳銃ヲ買取ルベシ應セサレバ相当ノ覺悟アリ等ノ悽文句ヲ並ベ或ハ日支開

戦期目捷ニ迫ル汝等、生命亦風前ノ燈ナリ何レ内鮮
人全部ノ屠殺ヲラルコト近キアリ等種々ハ威嚇シ試ムル
モノ多ク在留民ハ極度ノ恐怖ニ襲ハレ當館ニ事情ヲ報
告スルト共ニ奉天總領事館保護方ヲ電請スルニ至リタ
ルガ當館ヨリ海龍縣知事ヲ經テ第三十八團部隊長ニ對シ
部下取締方交渉ノ結果少シク緩和ヲ見ルニ至リタリ
翌十三日午前十時頃北山城子南門外支那人李某方ニ各
自スミヤル拳銃ヲ携帶セル五人、強盜團ハシ家人ヲ恐迫
シテ奉天大洋二萬元ヲ強奪シ何レニテ逃走シタルカ該
犯人何レモ灰色軍服ノ上ニ支那長衣ヲ着シテ寒装ニ居
レルヲ駐屯軍支那人ナルコト間違ナキモノノ如ク全地区官
ハ其ノ險峯ヲ躊躇シ居ルモノノ如シ
最近前記軍隊ハ奉天ニ引上クベシトノ風説アルモ昨十五日

奉大ヨリ全軍隊ニ歩兵銃彈四万發手榴彈百發迫撃
砲彈百發送付シ致スル事案アリ今日各地商務令内ニテ
三八國々長劉官元以下正官游撃隊長其他有志數名會
合シ上流言取締及兵士ノ夜間禁足外國人ノ保護等ニ関
シ打合ヲ為シタル事命令徹底マス流言依然トシテ行ハレ兵士
等ニ敢名乃至十數名ノ隊伍ヲ以テ市中ヲ橫行シ支那商
人ヨリ勝手ニ所要物品ヲ持去ル等橫暴ヲ逞フレツツアリ
全軍隊今後ノ行動ハ最大注意ヲ要スルモノト認メラル
右如ク告リス

哥

北京公使、奉天駐領事、亞細亞公使在

電信寫

分類



昭和4 一〇六七

略

芝罘 本省

一月廿五日後着

亞

田中外務大臣

第二號（主急）

森岡領事

永

龍口在泊信濃丸發以南海無線電信所經由ニテ龍口ニ兵變掠奪起
リ在留民危險信濃丸及連勝丸ニ避難シツツアルモ至急救助願フ
旨來電アリタルニ付早速旅順海軍宛電報急派方電請セリ原因ハ
兩三日前劉珍年カ黃縣ニアル第二師長劉開泰ヲ免職セル爲同氏ノ
軍隊カ劉珍年ニ反抗セルモノノ如キモ龍口當地間交通通信杜絶シ
實狀不明ナリ
公使、天津、上海、濟南、南京、青島、奉天へ轉電セリ

電信寫

人
手
金
手

昭和4 一〇七〇 略

芝罘 本省 一月廿五日發着

人

田中外務大臣

森岡領事

第三號

往電第二號ニ關シ

商船ニ避難中ノ龍口在留民救助並善後措置ニ關シ同地出張中ノ關島巡查應援ノ爲木村警部ヲ大連經由龍口ニ急派ス御泊認テ請フ

電信寫

昭和4 一〇六六 平

本關東廳省

一月廿五日後着

照

田中外務大臣

三浦外事課長

外第九號（至急）

外事課長發芝罘領事宛電報外第一號

信濃川丸ヨリ大連無線局へ左ノ通電留アリ右ニ付直ニ海軍側ト協

議手配中不取敢

本船龍口ニ在リ陸上ニテ爆発、戦争起リ邦人掠奪ニ遭ヒ危險ニテ

避難シ來ル

電信寫

昭和4 一〇九二

暗

關東廳
本省

一月廿五日後着

亞

田中外務大臣

木下關東長官

外第一〇號（至急）

芝罘宛電報第二號

往電外第一號ニ關シ

桑及櫻二十五日後七時旅順發龍口ニ急行前一時到着ノ筈

外務大臣、北平、奉天、上海、青島、濟南ニ轉電セリ（往電第一

號轉電濟）

龍

四、一、二五 右六十一五
右七十一〇

水曾光
着

(青島) 第二遣外艦隊司令官

了

海軍次官

軍令部次長

シナ
一〇二

在龍口信濃川丸より同地ニ戦闘勃発邦民掠奪ニ
遭ヒ危険ノ旨電アリ取敢ヘズ第九駆逐隊ヲ派遣シ
警備ニ任ゼシイ、

電信寫

字海

482

昭和4

一一

平

之榮
本省

一月廿六日前着

原

田中外務大臣

龍口日本人會長ヨリ

信濃川丸發無線ヲ以テ左ノ通電報シ來レリ

廿五日午前二時半ヨリ當地駐在支那兵ハ黃縣ヨリ來レル支那兵ト

合シテ全市ニ亘リ大掠奪ヲ爲シ邦人五軒大損害ヲ蒙リ公安局ノ武

器ハ全部右兵士ニ取上ケラレ市内無餘察狀態ニ陥リタリ兵士等ハ

正午南京ニ向ヒタルモ尙後援部隊當地通過スル由ニテ人心恟々タ

リ至急軍艦派遣願フ(廿六日午前一時接)

右來電ニ依リ察スルニ掠奪兵ハ今回免職セラレタル 第二師長劉

開泰ノ兵士ニ相違ナシ

公使、奉天、天津、青島、濟南、上海、南京へ轉電ス

森岡領事

永

電信寫

字海

482

昭和4

一一〇

平

芝罘
本省

一月廿六日前發

鹿

田中外務大臣

龍口日本人會長ヨリ

信濃川丸發無線ヲ以テ左ノ通電報シ來レリ

廿五日午前二時半ヨリ當地駐在支那兵ハ黃縣ヨリ來レル支那兵ト

合シテ全市ニ亘リ大掠奪ヲ爲シ邦人五軒大損害ヲ蒙リ公安局ノ武

器ハ全部右兵士ニ取上ケラレ市内無警察狀態ニ陥リタリ兵士等ハ

正午南京ニ向ヒタルモ尙後續部隊當地通過スル由ニテ人心恟々タ

リ至急軍艦派遣願フ(廿六日午前一時接)

右來電ニ依リ察スルニ掠奪兵ハ今回免職セラレタル 第二師長劉

開泰ノ兵士ニ相違ナシ

公使、奉天、天津、青島、濟南、上海、南京へ轉電ス

森岡領事

永居

字海

執

[illegible]

九、



電信寫

字海

部

昭和四年 一一二七

三

一月廿六日後着

陸軍省大臣

森岡領事

第五

昨日午後二時、敵艦ヨリ急行セシル駆逐艦、及標本壱零時半龍口着
其ノ來電要領左ノ通

邦人俘虜、高島五、在留民一、同狀ナシ、其ノ大部分ハ我派出所ニ避
ルシヨリ、皆テ傷ケ保護シツツアリ、掠奪兵ハ二十五日午後一
時南方ニ去リ、其ノ後ハ平穩ナルモ現地方官憲無力ニシテ治安維持
ノ能力ナシ

前電通り轉電ナリ

田中外務大臣

第六號

昭和十一年二月八日

本官

一月廿六日移籍

廣田領事

永島

龍口事件ハ當然劉珍年ノ責任ニ歸スヘキ間題ナルヲ以テ本官ハ昨日情報入手ト同時ニ劉ニ對シ即時治安ヲ維持シ我在留民ノ保護ヲ要求スルト共ニ我在留民ノ被レル損害ニ關シテハ務日査定ヲ了シ賠償ヲ要求スヘキ旨申出置キタル處本朝劉珍年ハ代表ヲ當館ニ派シ龍口ノ治安ハ既ニ回復セラレタルヲ以テ至急陸戰隊撤退ヲ申出タルニ付本官ハ右ハ甚シク實狀ニ相違シ龍口ノ支那官憲ハ目下治安維持ノ能力ナク全ク無警察狀態ニ付我方ニ於テハ已ムヲ得ス陸

戦隊ヲ以テ在留民ヲ保護シ居ル次第ナレハ陸戦隊撤退ヲ要求スル
前矢ツ完全ニ治安ヲ維持セラレ度旨反駁シ且ツ右ノ次第本日公文
ヲ以テ通告セリ
北平へ轉電セリ

電信寫

字海

龍口



昭和4

一一三五

略

芝罘
本省

一月廿六日接着

照

田中外務大臣

森岡領事

第七號

龍口事件ニ關係シ當地米國人側ヘノ入電ニ依レハ昨廿五日黃縣ニ
於テモ大掠奪アリ總商會長殺害セラレ右調査ノ爲芝罘ヨリ黃縣ニ
向ヒタル一隊ノ兵士ハ掠奪兵ノ爲ニ入城ヲ拒絕セラレ當地ニ引導
シタルト同時ニ招遠縣及棲霞縣ニ於テモ紅槍會蜂起シ膠東一帯地
方秩序紊亂ノ兆候アリトノコトナル處今朝當地劉珍年ノ軍隊ハ兵
二團ニ出動準備ヲ命シ遙萊方面ニ進軍スル模様ナリ當地ニ於テモ
何時如何ナル事變勃發スルヤ計リ難ヤニ付海軍側ノ軍艦派遣ヲ要

求レ置ケリ

北京、奉天、天津、上海、青島、濟南、南京、關東廳長官へ轉電
セリ

電信寫



録

昭和4 一一五一 略

芝罘 本省

一月廿六日 投差

人

田中外務大臣

森岡領事

第八號

瀋口ハ我在留民約百名ニ達シ大連ト密接ノ關係ヲ有シ年々異常ノ
發達ヲ遂ケツツアリテ最近ノ機會ニ分館設置方御詮議ヲ稟請スル
積リナリシ處今回ノ突發事件ニ鑑ミ不取敢地方情報蒐集並居留民
保護ノ見地ヨリ巡查一名以外ニ支那語關係ノ老練ナル書記生一名
ヲ今後同地ニ常駐セシムル必要ヲ痛感スルニ付至急御詮議御奏達
相成度シ

電信寫

字海

2



田中外務大臣

第一〇號

在奉平

ニ向ヒツツアリ

北平、奉天、天津、濟南、青島、關東廳長官へ轉電セリ

カエキ三ノ第三師全部本日午後當地通過暴動鎮壓ノ爲西方

昭和四年

一月廿六日

時

本署

一月廿六日

亞

森岡領事



5

電信寫

昭和4 一一四四 暗

芝罘 本省

一月廿六日後着

照

田中外務大臣

森岡領事

第一一號

海軍情報ニ依レハ黃縣ニ於ケル第二師ノ反亂暴動ハ殘酷ヲ極メ新
市長參謀長營長等ヲ殺害シタル後全市ニ亙リ大掠奪ヲ行ヒ市民生
命財産ノ被害莫大ナリト尙同地ニハ我在留民ナシ

北京、天津、上海、濟南、青島、南京、奉天へ轉電セリ

極秘

海軍次官
軍令部次長

(青島) 伊地知第二遣外艦隊司令官

二遣艦密ニの電

二遣艦一九 續キ

三第九駆逐隊司令ニ

イ、今回ノ事件ハ排日的暴動ニアラズ一般の擄奪ト認
ムニ付出来得限支那軍隊ニ對シ直接的行動
ヲ採ラザンコトニ努メ事態容易ナラザニ於テハ艦内尋
ニ一時收容スルコト

只機宜一隻シ芝罘ニ分派シ領事ト連絡シ執ルベキ

コト

ヲ下命シ置ケリ

三十七

高送先

大臣 次官 亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

電信課長

(分類 46.1.5.1-1)

昭和4 一 一九二 略 芝罘 本省 一月二十七日 后發 重

田中外務大臣 森岡領事

第一二號

三藏口在留民ノ被害ニ關シ大体調査ヲ遂ゲタルニ被害者ノ主ナル者
ハ大連洋行、ヨシヤ洋行、嶗島洋行ノ三件ニシテ損害額僅ニ一萬
圓ニ達セズ右ハ劉珍年ヲ相手トシテ即時賠償方交渉ヲ開始シ度キ
考ニテ不取敢本日本官劉ヲ訪問懇談セル處劉ハ自分モ日本人ノ損
害ニ關シ既ニ調査ヲ命ジタルニ付其ノ報告ヲ待テ賠償ノ交渉ニ應
ズベキ旨言明セリ
北京ニ轉電セリ

外務省

電信寫

字海

張



昭和4 一一九一 晴

芝不
本省

一月廿七日 辰 辰

盟

出中外務大臣

第一三號

手印

森岡領事

龍口黃縣地方ハ涼軍兵逃亡後平穩ニ歸シ劉珍年ハ泊安維持ノ爲今
同率平ヨリ第三師ノ大部ヲ右安地ニ移駐セシメタルト共ニ我派出
所及小隊夜ニ避難中ノ龍口在留民ハ昨日全部歸宅セリ海軍情報ニ
依ル新任第二師長ノ殺害説ハ訛傳ニシテ同人ハ第二師ノ全部隊約
二千ヲ率ヒ目下蘆萊ニ駐屯シ興狀ナシ

劉開泰ハ二十四日卯ニ大連ヨリ龍口ニ來リ舊部下ヲ煽動シタル事
實判明セリ

北京、青島、濟南ニ轉電セリ



26

四六三三
前セーミン

本署表

(青島) 伊地知第三艦外艦隊司令官

海軍次官
軍令部次長

7

7日

二連署一九

一、第九駐遼隊司令報告ニ依レハ

イ、登沙ニアリシ「ウカイタイ」(旧第三師長)ハ劉珍年(軍

長)ニ追ハレ二十一日頃龍口ヨリ大連ニ赴キ軍セシカ二十四日

午後雨ハ甚濃川ハニテ龍口ニ上陸セリ

ロ、其後軍艦隊ニアリシ「ウカイタイ」旧部下ハ二十四日午後八

時頃劉珍年ヨリ任命セラレタ新市長ヲ知事兼謀

ヲ統制後同方面一帯ヲ掃蕩次第デ二十五日午前二

時頃龍口ニ至リ同地ニヤリシ部隊ト会同市街ノ店舗

シ荒シ同日午後一時頃引揚ゲ撤収方面ニ向ヘリトセラ
ハ邦人被害目下調査中ニモ接害セシメン在留邦人
ノ店舗五軒在留民ノ大部ハ目下ハ學校及領事
館派出所ニ避難中ニシテ生業ニ妨ガレタキカ如シ
ニ機彙ハ三日前午後一時半龍口着午前十時居留
民保護ノ為我二十五名ノ陸戰隊ヲ揚陸シ警備
中ナリ

二十方





甲一三七 后一三五
后五一一 本署

海軍次官
軍令部次長

青島伊地知第三遣外艦隊司令官

二遣機密二三番電

一、二十七日朝迄ニ判明セシ龍口在留邦民被害中五十九人ハ水師營洋行ヨリヤ洋行藤島製作所及馬場館ニシテ損害約七千五百円程度ノ見込
(以下二遣番三八ニ續ク)

二十七日

四二二五 前二二五 前二二五 着表

(青島) 伊地 第三遣外艦隊司令官

海軍次官
軍令部次長

二遣五二七

一、其後ノ龍口情況次ノ如シ

イ、二十五日午後以後龍口平穩在留邦人皆無事二十六

日自定ニ帰レリ

ロ、二十六日朝陸戦隊三ト五五ヲ揚陸整成配備ニアリシ

モ右ノ次第故他ハ日没迄ニ引揚グ筈彙シ芝罘ニ

分派午後三時四十分着同地ノ警備並ニ龍口トノ

連絡ニ任セシメアリ被害ノ状況未詳ナモ何レモ輕微

ナリトノ報アリ現下ノ情況明朝迄繼續シ左シタヘ

ヒナケハ明報成へん早々連綿隊全部ヲ収容シ苟
分海上ヨリ警備ニ任ズ様下命シ置ケリ

三十七日

S

161529

028

山

ノ

四、一、二七、
五五、
水雷

伊地知第二遣外艦隊司令官

海軍次官
軍令部次長

二、普二十七、六二

二、桑芝采着後ノ情報ニ依ルハ

一、當領事其ノ他ノ談ヲ綜合スルニ黃縣龍口兩地ニ於ケ
ル反兵討伐ノ為ニ平駐在第三師全部約三千名師
長何益三指揮ノ下ニ本日午後四時頃當地通過龍口
方面ニ西行シツツアリ明夕抵達ニ集合シ同地及棲霞方
面ノ紅槍會約四五千ト結托シ膠東一帯ヲ掃蕩スル計
畫ナリト云フ、

二、當領事ヨリ龍口邦人掠奪ニ関シ劉珍年ニ対シ嚴重



抗議スルトコロアリ尚損害賠償ニ関シテハ詳細調査ノ
上要求スル筈

三、目下芝罘ハ劉珍年ノ手兵第一師約四〇〇名ヲ以テ治安
ヲ維持シ平穩ナレドモ劉ノ部下第四師長李錫桐及第
五師長施中誠ハ此機ニ乘ジ反旗ヲ翻スベントノ謠言盛
ナリ、

四、劉珍年ハ尚外人及地方民ニ人氣良好ナレドモ其軍隊
内ニ於テハ最近甚シク不良トナレリト、

五、英艦「マブリア」二十六日正午芝罘入港右ニ対シ本職ハ
取敢ズ殘余ノ二隻ヲ増派シ龍口ニ二隻芝罘ニ二隻ト
シ警備ニ當ラシメ爾後ノ推移ニ依リ處断セントス現
下ノ政情ヲ顧慮シ出求得ル限リ陸戰隊ノ揚陸等ハ
最小限度最小時ト爲ス考ヘナリ、

龍口

四二二

第貳

青島 伊地知第三遣外艦隊司令官

海軍次官
軍令部次長



二遣艦三

二支那住民ハ被害ハ死者二名損害約十五萬圓程度

ナカハ如シ巡警ハ大部分銃器ヲ掠奪セラレ龍口ノ治

安維持ニ任ズベキ軍隊ナク一時流言蜚語盛ナリ

シテ陸戦隊揚陸後漸時平穩ニ帰シツツアリ

三芝罘龍口間ノ陸電復同セリ

四大島ニ鑑ミ我軍隊ノ支那側ト直接交渉觸接スル

男メテ嫌ケシメ居レリ

梅本日午後龍口ニ回航セシム豫定

三十七日

161529

031

夕刊

四六 二六 所一 三三 海軍史

海軍史
軍司令部史

(青島) 伊地知第三遣外艦隊司令部

二 遺囑三〇

二十七日午後九時迄ノ調査ニ依ルニ本年平ニア、第三師長
何益三ノ遺囑長、若山有デンハ劉珍年ヨリ龍口治安維持
ノ要ヲ受ケ手兵百二十ノ率ヲ今般三時龍口着更ニ着
干ノ兵力ヲ増加スルモノハシ

二 龍口方面ハ今朝来平穩ニシテ警備長ノ全責任ニ以テ
治安維持ニ當ルノ聲明モアリ、構ノ連絡隊ハ午前
艦内ニ収容セシメタリ

三 二十七日芝罘領事ノ龍口邦人被害ニ對シ賠償要求

二對シ劉珍年、昨日派遣セシ報告シ
侯テ賠償交渉ニ應ズル旨回答セリ

四、諸情報ヲ綜合スルニ今次ノ黃石龍口掠奪事件ハ
劉珍年部隊内ノ内訌ニ端ヲ發シ土匪化セシ軍隊ノ
所為ニシテ李錫桐施中誠等ノ大ノ機ニ乘リ叛乱スベシ
トノ風説アルモ軍中流言ニ為ギヤルカ如ク劉副旅長張宗
昌一派ノ援助ノトニ某方ニ接リ劉珍年ニ對抗スルニ至
ラバ多クノ騷擾ヲ豫期セラルニ張氏今度ノ山東ニ擧兵
スル機嫌ナキニ鑑ミ本事件ハ前々之以テ進取ニシテト
ナリ一先ヅ平穩ニ帛スルモノト思ハレセリ依テ前々之
九龍部隊（橋本）ヲ以テ芝罘龍口ニアツテ海上ヨリ警戒
セシム

三十七

昭和四年一月二十八日

一月廿六日午後四時十分著
第三師團參謀長

陸軍次官宛

三謀二三

龍口

附近、兵變ニ関シ

其ノ後得メ

ル情

報左ノ如シ

大連

ニ亡命セル劉開太ハ二十四日露

龍口

ニ上陸シ二十五日午前全市ニ

直リ

掠奪ヲ行ヒ邦人家屋五軒、

被害

ヲ受ケ在留邦人ハ小學校及

領事

館派出所ニ避難セリ目下旅

順ヨリ

機ヲ、又ホノニ駆逐艦来着シ

陸戰隊ヲ上陸シ保護中ナリ

S

161529

035

電信寫

抄

昭和4

一三八二

時

芝罘
本省

一月廿一日後着

原

原

田中外務大臣

第一六號

森岡領事

龍口上陸中ノ長陸戰隊ハ二十八日當地治安維持ノ爲派遣セラレタ
ル第三師ノ支那兵ニ着ト同時ニ撤退ヲ行ヒ且其ノ後當地平穩ニ付
歸備軍艦モ昨三十日旅順ニ向ケ歸還セリ

北京、天津、青島、濟南、上海、南京、奉天ニ轉電セリ

七

四、一、二八、九一〇、二〇、
前、一、二、
ハ、
着、

伊地知第二遣外艦隊司令官

海軍次官
軍令部次長

二、遺普三十一、

一、其ノ後龍口全ク平復ニ復シ芝罘亦動搖セズ本日水村芝
罘警察署長ト劉珍年ノ特派セル副官ト立會ノ上在留邦
ハノ損害調査ヲ行ヒタル筈

二、目下龍口ニ樸、鎮、芝罘ニ桑ヲ配シ在リ、

三、第九駆逐隊司令報ニ依リ龍口事件ノ真相ト認ムベキ矣
ヲ補足セバ左ノ如シ、

一、昨年末萊州ニアリシ劉開泰、張宗昌及雜色軍ト氣脈ヲ
通ジツツ膠東各地ノ紅槍會其ノ他ノ土匪ヲ使惑シ密ニ事



ヲ拳ゲント計畫中ナリシガ如ク劉珍年ハ彼ノ態度ヲ怪ミ
十二月中旬劉開泰ノ第二師ヲ登州ニ移駐セシメ次デ一月
上旬彼ヲ免職セリ

ニ、大連ニ亡命セル劉開泰ハ張宗昌ヨリ若干ノ軍資金ヲ受ケ
二十四日龍口上陸旧部下タリシ同地駐在ノ營長王錫福
共ニ同志ト會合叛旗ヲ翻サントヒンモ意見一致セズ止ナク劉
ハ軍ニエト事ヲ揚グルニ至レルモノ如シ

三、劉ハ王ヲシテ龍口商務總會ニ約五萬圓ノ計畫方ヲ命
ゼシメタルモ斷ラレ遂ニ外部ニ通スル電線ヲ切斷二十五日午
前二時ヨリ正午ニ亘リ巡警ノ武器ヲ奪ヒ店鋪ヲ掠メタル後
招遠ニ遁走目下同地ニ於テ同志ヲ糾合中ト云フ、
四、劉珍年ハ王ニ書シ送り慰撫帰順ヲ勸メツツアリ、

四二二九
三〇九〇一五
本署

海軍次官
軍令部次長

(青島) 伊地知第二遣外務省
外務省

二遣番三六

一第九驅逐隊司令官 報ニ依レハ

(一) 龍口其ノ後累状ナシ在留邦人被害ノ日支共同調査意

見一致セズ交渉ハ三十日以後芝罘ニ於テ行ハシム

(二) 二十九日劉開泰平度ニ入り又招遠地方ヨリ民團軍約

百餘口ニ逃ゲ来レリト

(三) 萊州ノ李錫桐ハ殺心ナキモク如シ

二十九日午後七時ヨリ芝罘ニ機乗、龍口ニ機ヲ降シアリ

二十九日

陸軍省

軍部

第一師團

中山

昭和四年貳月八日 接獲

機密公第四一號

昭和四年一月二十九日

在 芝 罘

領事 森 岡 正



外務大臣男爵 田 中 義 一 殿

龍口、黃縣兵變ノ真相ニ關スル報告ノ件

龍口ニ出張シタル木村警部ノ歸報ニヨレハ蘆花、黃縣、龍口方面
駐屯軍ノ長官タル第二師長劉開泰ハ去ル二十一日突然劉參年ニ免
職セラレテ大連ニ遷レ居リタル處劉開泰ハ深ク劉參年ノ待遇ナル

612.005

6

161529

040

仕打ヲ含ミ暗ニ在掖縣第四師長李錫綱ヲ誘ヒ聯合シテ劉珍年ニ反
旗ヲ舉ス目的ヲ以テ去ル二十四日日本汽船連勝丸ニテ潛ニ龍口ニ
歸リ同地兵營内ニ入りテ商會長ニ對シ軍資金貳萬元ノ提供方ヲ要
求シタルニ懇好ク拒絕セラレタル折柄偶々同人ノ舊部下タル黃縣
駐屯ノ第二師第四團第二營及第三營ニ屬スル兵士カ二十四日深夜
突然第四團長劉效康ヲ殺害シ且縣長ヲ抑留シテ擄奪ヲ開始シ次テ
在龍口第四團第一營ノ兵モ黃縣ト呼應シテ擄奪ヲ行ヒタル次第ナ
リトノコトナリ思フニ此等兵士ハ舊師長ノ隱謀ニ乘リテ土匪ノ本
質ヲ發揮シタルモノ、如ク劉開泰カ豫メ此等兵士ヲ煽動シテ劉珍
年ニ反抗セント企テタルハ事實ナルモ兵士ニ對シ擄奪ヲ使ハセル
モノトハ認メ難シ當時第四師長李錫綱ハ芝罘ニ出張シ居リタル爲

劉開泰ノ政治的隱謀ニ關シ李ト協議ノ機會ナク一脫ニヨレハ劉參
年ハ數日前ヨリ劉開泰ノ隱謀ヲ探知シ李錫綱ノ策慮ヲ悉レテ豫メ
李ヲ芝罘ニ呼寄セ懇好ク抑留シ居リタルモノナリトモ傳ヘラル
之ヲ要スルニ今回ノ事件ハ最初ハ劉開泰カ政治的隱謀ヲ以テ龍口
商人ヨリ軍資金ヲ強徵セントシタルニ基因シ次テ其要求拒絕ニ違
ヒ同時ニ兵士カ擄奪ヲ行ヒタルモノニシテ外間ノ瑣事雖說ニ係ル
舊直魯軍伐巨頭ト本件トノ關係云々ハ何等ノ根柢ヲ有セサルモノ
、如ク尤モ本件ハ反兵カ二十五日午後一時頃黃縣、龍口方面ヨリ
招遠方面ノ山中ニ逃亡セル後一段落ヲ告ケタルモノカ爲劉參年軍
ノ内情暴露シ劉ハ甚シク威信ヲ失迷シタルヲ以テ今後馮玉祥解任將
介石、張宗昌等ノ連中カ陰ニ陽ニ此ノ機ヲ利用シテ當方面ニ新勢

B11

カヲ扶植セント試ムヘキハ蓋シ免レ難キ情勢ナリト察セラル
次ニ龍口ノ炸彈ハ實地調査ノ結果當時信濃川丸及居留民側ヨリ發
シタル無線電報ハ甚シク誇大ニ失セルコト判明シ本邦人ノ大部分
ハ二十五日早朝ニ至リ始メテ前夜ノ事實ヲ聞キ事後狼狽シタル位
ノ程度ニシテ炸彈ヲ蒙リタル本邦商店數軒ノ如キモ別ニ何等生命
上脅迫ヲ受ケタルコトナク財産上ノ被害モ極メテ僅少ナリ
右報告ス

本信寫送付先

在支公使、奉天、天津、青島、濟南、上海、漢口各總領事、
南京領事

10 25 4. 6. 1. 5 - 1)

212.114

夏期臨時

機密公第四二號

昭和四年一月三十日

在 芝 罘

領 事 森 岡 正 平



外務大臣男爵 田 中 義 一 殿

龍口 曉 奉ニ關スル本邦人損害賠償方交渉ノ件

本件ニ關シ今回別紙寫ノ通り劉珍年宛照會セルニ付御査閱アリタシ實
ハ右七千五百九十四圓ノ損害ハ被害者ノ申告ヲ其儘計上シタル次第ニ
テ實損害ハ二三千圓ニ止マルベキ見込ナルモ被害者ノ主張スル現金

二 三 四

昭和四年貳月八日 接獲

別紙添附

ノ被害ハ當館ニ於テモ正式ニ之ヲ決定スル事ヲ得ザル事情アルト同
時ニ結局賠償額決定ニ就テハ支那側ニ於テモ半額位ニ俯切ルコト必
然ナレバ旁被害者申告ノ通り査定セル次第ナリ

寫送附先 在支公使

B11

寫

支第四號

敬啟者龍口七兵滋擾事件前接一月二十七日貴署來已閱悉查此次之變
貴軍長以迅速手段旋即敷平中外人民得早日安居樂業本領事至深感
佩
關於本邦商號損失部分當派本館館員木村三敬前往龍口會同

貴部泰南官交涉署于科長切實調查計被劫者五家損失總數七千五百九
拾四元五角此為至確實之數日無不實不帶之處本領事為注意

貴我之感情起見極望

貴軍長迅予賠償以期本案之早行圓滿解決也此致

劉軍長

B11

S

161529

046

昭和四年一月二十九日

在 芝 罘

領事 森 岡 正 平

附損失清單一 份

B11

S

161529

047

總波事額

合計

銀五千八百五圓也

銀壹千六百零拾九元五拾仙也

小洋壹百五拾元也

B11

標、被審、局

山東省龍口四平街二十三號

大連洋行 南勝太郎

一、銀四百貳拾元也

一、金貳千七百五拾圓也

一、小洋壹百五拾元也

一、金壹百八拾五圓也

金時計參個（中時計、腕時計、及

銀ノ時計）

一、金貳百拾圓也

金鎖、多凡共貳本

一、金拾九圓也

金掛環貳個

一、金幣百五十圓也

タイヤ入白金指環壹個

一、金幣百圓拾八圓也

安撫金止銀五點

一、金七拾五圓也

七兩貳枚

一、金幣百五十拾圓也

七兩貳枚

一、金幣百五十圓也

七兩貳枚

一、金貳百圓也

ゴム帶百足（贈品）

一、金幣百圓也

及戸及家百圓銀サレタル修繕代

一、金幣百貳拾五圓也

金四百貳拾五元（邦貨換算）

合計

銀四千三百五圓也

銀四百貳拾元也

B11

小津壹百五拾元也

右ハ昭和四年一月二十五日午前二時半ヨリ同六時迄及同日午前九時半ヨリ同十時半ニ至ル二回幕張事類ナリ

B11

四一三〇

右一九二三
水曹着

海軍次官
軍令部次長

伊地知第二遣外艦隊司令官

二遺普三十七

其後、龍口芝罘全ク平穩、異狀ナシ。三十日午前零九
駆逐隊、配備ヲ撤シ午後旅順ニ歸投セシメタリ。



昭和四年一月三十一日

電報

一月三十日午後五時三十分著
北京公使館附武官

陸軍次官宛

支第 二九

龍口兵乱ニ對シ當地支那新聞ハ

例ノ如ク捏造的記事ヲ掲ケ猶本

日ハ其ノ社説ニ於テ本事實變ハ日

本カ山東ヨリ撤兵スル能ハサルノ

實ヲ作ランカ為ノ雜色軍ヲ使喚

シテ發生セシメタルモノニテ其責任ハ

日本ニアリ等ノ暴論ヲ吐クモノアリ

斯ノ如キハ遠牙ニ掛クルノ要ナキ

毛
何
等
力
參
考
造



161529

060

秘

四三二 后一三五
后一七
本 曾 菱

海軍次官
軍令部次長
(芝罘) 伊地知第二遣外艦隊司令官

二遣機密ニ五番電

本日芝罘領事ニ諸セニ龍口邦人ノ被害ハ推察通リ損
害最大ニ三軒ノ者ニ 的商人ニシテ他ハ極メラ輕微總
計二千四百以下ニカ如ク 領事ハ被害者申出ノ通 劉珍年
ニ七千五百圓賠償要求中ナリ 交渉ハ 領事ハ邦人ニ要シ
本戦ヘ之ヲ支持セザル方針ナリ

二日

秘

第四九號

昭和四年一月四日

在芝罘

領事 森岡 正



外務省
昭和四年一月四日
森岡正

昭和四年一月四日附本官發
第一六號

寫送付

件名

南方新聞社「日本」関係記事

在芝罘日本領事館

昭和四年貳月拾壹日發受

別紙江附

S

161529

062

寫

諸方機密第二六號

昭和四年二月四日

在 芝 罘

領事 森 岡 正 平

關東長官 木 下 謙 次 郎 殿

當方面ノ時局ト日本人トノ關係脫ニ關スル件

往電第二號ニ關シ在青島湯川海軍駐在武官及在濟南第三師團板花輔
重兵少佐一行カ昨日當地經由龍口ニ赴キ聞キ込ミタル所ニヨレハ今
同招遠縣城ヲ占領シタル土匪團ハ大刀會、無極道、北極會、紅槍會

、聯莊會等ノ迷信團體ニ屬スル無賴漢約二千人ヨリ成リ司令部ヲ
招邀、萊陽、平度三地ノ中間ニ位スル畢郭ニ置キ青龍刀、棍棒、
槍及少數ノ小銃ヲ携帯シテ暴威ヲ振ヒ劉珍年ハ之カ討伐ノ爲一月
十九日招邀ヨリ百名萊陽ヨリ六百名黃縣ヨリ二百名計九百名ノ保
安隊ヲ派遣シタル盛土匪ノ爲大部分を殺セラレ生還セルモノ僅ニ
百五十名ニシテ其餘土匪ノ勢力益々猖獗ヲ極メ遂ニ今回招邀縣城
ヲ占領セラル、ニ至リタル處ニテ最近芝罘及黃縣ヨリ討伐ニ向ヒ
タル正規軍三、四千ハ未ダ土匪ト接觸スルニ至ラストノコトニ有
之候

本件ハ往電第二號ノ通り目下大連興町餘豐旅館ニ居住スル故畢廣
澄ノ參謀（昨夏南軍ニ通セルモノ）并天寶カ近ク山東派遣日本軍

ノ撤退セラルヘキヲ察シ劉珍年ヲ驅逐シテ自ラ其地位ヲ獲得シ意
南方ノ勢力侵入スル際其瞭解ヲ得テ膠東地方ヲ支配セントスル
謀ノ發露ナルカ如ク當館密偵ノ報告ニヨレハ編輯ニハ日本人數名
參與セリトノコトニ付支那側ノ惡宣傳ヲ豫防スル爲至急眞偽御取
調ノ上若シ斯ル事實アルトキハ此等日本人ニ對シ嚴重御取締相煩
度尙本件ト關係アリヤ否ヤ差當リ不明ナルモ一月二十日左記日本
人五名支那汽船公利號ニテ大連ヨリ龍口ニ渡航シ引續キ支那旅館
德昌旅館ニ投宿中ニテ當館派遣巡查ニ對シテハ張宗昌ノ内命ニヨ
リ支那軍隊狀況觀察ノ爲出張シタル旨申立テ居ル趣ニ付當館トシ
テモ同人等ノ行動及經濟等出來得ル限り調査致スヘキモ貴方ニ於
テモ在連中ノ行動等ニ關シ御取調ノ上何分ノ儀御回答相成度此段

電報補足勞及依頼候 敬具

原 籍 原 住 地 氏 名

福島縣双葉郡廣野村折木 大連惠比須町九十 根本 豪

三井地

齊森縣南津浦郡淺館村 同上 駒 木 隆 美

和歌山縣和歌山市名屋 同上 伴 鐵 夫

町一丁目

東京市麻布區霞町 同上 伊 藤 新 吾

長崎縣長崎市油谷^町一八 同上 伊 藤 舜 介

以上

本信送付先

大臣、在支公使、奉天、天津、濟南、青島、上海各總領事

南京領事

B11

電信寫

昭和4 一六六四 平

芝罘 本省

二月五日 後着

照

田中外務大臣

森岡領事

第二〇號

龍口來電ニ依レハ本五日龍縣、龍口間自動車電話共不通トナリ同
地駐屯支那軍隊黃縣ニ向ケ引上準備中ナルカ右ハ高鳳岐、李錫桐
ト聯合シ龍口方面ニ進撃セムトスル事情ニ依ルモノノ如シトノコ
トナリ

尙當地ニ於テモ昨夜來日ノ種謠言盛ナリ

公使、青島、濟南へ轉電ス

旅順海軍へモ同様電報セリ

電信寫

昭和4 一七〇一

暗

芝罘
本省

二月六日前着

田中外務大臣

森岡領事

第二二號

建置第二〇號ニ關シ

縣天寶、劉開泰及李錫桐間ニ完全ナル瞭解成立シ紅槍會、大刀會等土匪ノ後援ヲ得テ龍口芝罘ニ向ヒ進軍シ來ルトノ流言高ク本五日午後九時頃ヨリ當市内要所ニ戒嚴令布カレ大官富豪ノ家族ハ威海衛方面ニ避難シ始メタリ一説ニハ右陰謀ノ背後ニ張宗昌ノ活動アリトモ傳ヘラレ事態ノ真相判明ヲ缺クモ兎ニ角時局ノ緊張ハ事實ニシテ劉珍年モ着々戰鬪準備ヲ整ヘツツアリ

北京、濟南、青島へ轉電セリ

電信寫

龍口出張員ノ來電ニ依レハ今回掖縣ニ於テ獨立セル第四師ノ先發隊ハ昨八日龍口ヲ距ル六十支里ノ地點ニ迫リタル爲龍口ノ公安局長及海關監督ハ逃亡シ我居留民ハ同日以降夜間ニ限り派出所及小學校ニ集合スルコトニ決セル趣ナリ尙同地在留民保護ノ爲縣延續一隻急派方要求シ置キタリ

支、濟南、青島へ轉電セリ

昭和4 一九二一 暗

芝罘 本省 二月九日後着

中

照

田中外務大臣

義國領事

第二四號

龍口出張員ノ來電ニ依レハ今回掖縣ニ於テ獨立セル第四師ノ先發

隊ハ昨八日龍口ヲ距ル六十支里ノ地點ニ迫リタル爲龍口ノ公安局

長及海關監督ハ逃亡シ我居留民ハ同日以降夜間ニ限り派出所及小

學校ニ集合スルコトニ決セル趣ナリ尙同地在留民保護ノ爲縣延續

一隻急派方要求シ置キタリ

支、濟南、青島へ轉電セリ

(2)

燕
湖
兵
變



161529

074

電信寫



昭和4 一九三三 略

南京 本省 十月十八日 夜着

南京外務大臣

一〇七五號

上村領事

各地砲台破壊遂にノ接受セル無電ニ依レハ本十八日午前三時蕪湖ニ兵
變起リ銃聲頻リニ聞ユルモ領事館ハ異常無ク伏見ト聯絡ヲ取り在留
民保護手配中ナルカ目ヨリ保護急行スルコトトナレル趣ナリ既ニ
關係方面ヨリ電報費ノコトト存スルモ爲念
支。上海、奉天、蕪湖へ轉電セリ

秘

電信寫

附 4
一五三八七册






十月十八日 發

嶺南外所大

上村領事

卷一
一〇七六號

住 宅 第 一 〇 七 五 號 二 階 シ

海軍情報ニ依レハ薩湖ノ兵變ハ同地ノ東南約三十五哩ノ地點寧國府ニアリシ方振武部隊カ薩湖軍団ノ爲進撃シ來レルモノノ如ク交通杜絶ノ爲在留民ノ安否判明セサル趣ナリ

頃當地二引返又等

電信寫

12月 6日

昭和4

十一月十七日

上海

十月十八日 午後

重光總領事

第一二二一號 (全管)

海軍部ニシタル情報ニ依レハ十八日午前三時蘇湖ニ戰亂起リ午前
七時ニ至ルモ蘇湖方面マス脱泊中ノ軍艦伏見ヨリハ陸戰隊ヲ上陸セシ
メ領事館ヲ始メ居留民ノ保護ニ任セシメ居レルモ交通社報ノ爲未タ
邦人ノ安否ヲ詳ニセストノ故ニテ尙右ハ宣城ニ在リタル王占林軍(一
萬餘部下)カ蘇湖ノ新編政府軍第三旅(龍式連ノ第五師ニ附屬ス
ル獨立旅々長陳傑勳)ニ對シ攻撃ヲ開始シタルニ依ルモノノ由ナリ
支、南京、九江、蕪湖、漢口、奉天へ轉報セリ

極秘

(南京)米内第一遣外艦隊司令官

海軍次官 (佐鎮長官)

軍令部次官 (麾下)

連日機密第一五一番電 (十八日)

宛海軍次官、軍令部次官

今朝勃発セル蕪湖ノ兵変ハ、局部的事件ニ過ギテ
 ルモノト認メラル江蘇一帯蔣派ノ兵力手薄ニ乘ジ各地
 ニ於テモ此種反蔣事件ノ發生ノ虞アリ加ッルニ河南方
 面ノ形勢力漸々重大化シ其進展如何ハ直ニ漢口方面
 ニ波及スルモノト認メラル此際至急驅逐隊一隊増派シ希
 望ス

四一〇一八
 右四一四五
 右六一四七
 利根系

(六五四)



重三

用信

四一〇一八

前九一三七

所着

(六三一)

第一遣外艦隊司令官

海軍次官

(馬要司令官 二遣司令官 佐鎮長官)

軍令部長

(杉坂久保田 酒井一遣各艦)

タナ六六

一、蕪湖

伏見報ニ依ル本朝午前三時市内ニ兵変

起リ午前七時銃聲猶熾ナリ領事館無事其

他邦人安否調査中

二、本職鎮江下流ヨリ南京ニ回航午后一時同地着

豫定

三、蕪湖在泊艦保津伏見

十八日



161529

079

電信寫

蘇柳考

昭和4 一五四二八 略

上海 本省 十月十九日附着

亞

幣原外務大臣

第一二一二號

本官發南京宛電報

第一一七七號（至急）

大臣宛往電第一二一一號ニ關シ

在滿湖領事ヨリ別電第 二七八號（滿湖發本官宛電報第三二號）ノ

通海軍無線經由通報アリタルニ付テハ同電末段王部長ニ通知方然ル

ヘタ御取計アリ度シ既ニ海軍側ヨリ通報済ミノ事ト思考スルモ爲念

別電ト共ニ大臣、支、漢口、九江、奉天ヘ轉電セリ

本電ノミ滿湖ヘ轉電セリ

盧光總領事



電信寫

蘇州告吏



昭和4 一五四二三

暗 上海

本省 十月十九日附報

南京外務大臣

第一二一三號(至急)

本官發南京宛電報第二七八號

蘇州發本官宛電報第三二

蘇州駐屯新編第三旅ノ四個團ノ中三個團ハ上流十五支里魯港ニ在ル

方振武軍ノ一個團ト策應シ突如旅長 カントクヤンヲ捕ヘ市街ヲ包圍

シ旅長ヲ擁護セル一個團ヲ攻撃シ午前三時ヨリ開戦正午市街ハ叛軍

ニ占領セラレタルモ銃炮聲絶エス支那警察ハ全部委ヲ隱シ市内ハ叛

軍ニテ戒嚴令ヲ布ク昨夜來交通通信杜絶シ居留邦人ノ狀況不明ナル

盧光總領事

亞



201

13

13



モ交戦地域市街ナル爲大体安全ナリト認ム今朝伏見ハ陸戦線ヲ當面
ニ派シ保護ニ當ル交渉員ヨリ狀況ヲ王外交部長ニ至急通報方依頼ス
リ然ル可ク取計ハレ度シ

外務大臣、在支公使ニ傳ヘラレ度シ（十八日正午）

大臣、北平、漢口、奉天、九江へ電報セリ

電信寫

秘

萬
印
多
美

昭和4

一五四五〇

附

上海
本省

十月十九日接報

駐外新大臣

第一二一七號

往來第一二一一號ニ關シ

十八日夕刻海軍側ニ達シタル情報ニ依レハ(一)十八日午後三時市街戰

止ミ市中小康(二)邦人全部無事ニシテ奪略セラレタルモノナク婦女子

ハ伏見及日清「ハルク」ニ避難セシメ(三)伏見陸戰隊ハ同夜領事館ニ

移留セシムルコトトシタル趣ナリ不取敢

支、漢口、奉天、南京、九江ニ轉電セリ

重光總領事

駐外新大臣

四一〇、八后七——三〇利根(六六二)

米内第一道外艦隊司令官

海軍次官
軍令部次官
佐藤長官
馬場司令官
二道司令官
鈴木次官

普五〇蕪湖十八日保津報

一、午後三時頃市街戦熄ミ市内小康

二、邦人全部無事掠奪サレタルモノ無シ婦女子ハ伏見及日

清ハルヲニ避難セシメタリ

三、領事館ニ派遣セル伏見陸戦隊員數士官一下士官兵十六

十八日



四、一〇、一八后八——一五
 一、九利——二五
 利根寮（六五八）

米内第一遣外艦隊司令官

海軍次官
 軍令部次長

（以下要港司令部司令官
 佐世保鎮守府司令官
 佐世保外艦隊司令官
 杉山、久保田、酒井）

普五一

蕪湖日清バルク・避難セル邦人保護、為保津ヨリ警戒隊下主一
 兵十ヲ派遣ス

十八日

電信寫

秘

昭和4

一五四八五

時

本 省

十月二十日 接 著

幣原外務大臣

第五一號

海軍無線經由上海總領事宛第三二號ニ請シ

反軍退却後南京ヨリ來投セル獨立第四旅及第五師ノ軍隊協力治安維

持ニ當リ居ル爲市内ノ秩序恢復シ一般ニ平靜ニ歸シタルカ尙反軍ノ

來侵ニ備フル爲市内外數里ノ地點ニ防禦陣地ヲ布クト共ニ夜間市内

ハ戒嚴令ヲ布キ居レリ今回ノ事變ニ際シ警備中ノ保津、伏見兩區ノ

將卒ハ非常ナル危險ヲ冒シ居留民及當館ノ救助ニ當リ何等ノ被害無

キヲ得タリ尙當地電報局ハ目下九江宛發電ヲ受付サルト共ニ復然電

榮崎領事

亞

館發電ヲ仰留セル事實アリタルニ付本電報到着ノ上ハ返電アリタル
本電報上海ヨリ九江ヘ轉電ヲ請フ
支、上海、南京、漢口ヘ轉電セリ

電信寫

宮内省
陸軍省
海軍省
外務省
逕達

昭和4 一五五七〇 略

本署 十月廿二日午後

榮崎領事

第五二號

往電第五一號ニ關シ

四圍ノ狀況安定シタルニ付海軍側ト打合ノ上當館ニ上陸セシメタ

ル陸戦隊ヲ引揚ケ避難セシメタル居留民及當館婦女子何レモ本日

歸還セシメタリ

支、上海、漢口、南京へ轉電シ九江、蘇州、杭州へ暗送セリ



外務省

四、一〇、二一 午後七—二五
午後九—五九

利根 著 (七五三)

米内第一遣外艦隊司令官

海軍次官 (佐世保鎮守府司令長官)
軍令部次長 (馬公二遣西司令官)
(杉坂、久保田、酒井)

一遣普五三番電

一、蕪湖市内漸時安定殆シド常態ニ復ス

二、伏見陸戰隊及ビ保津警戒隊ヲ撤シ領事館・伏見ヨリ下

士一、兵四、ヲ残ス

三、伏見及日清ハルクニ避難中、邦人ハ明二十日復歸セシム

二十一日

外務省

芝田

一遺普回

燕湖領事館ニ派遣セル伏見連絡兵ヲ撤ス

三十一

四一、三右九一三〇
四前一一一七
光緒（八〇六）

米内第一遺外艦隊司令官

海軍次官

軍令部長

三



161529

090



分付

事務

161529-1-1

文書課長 成務

文書課發給 昭和四年拾月拾日發送済

印書

正校(原稿)

原稿用紙(印書)

主 管

主 任

昭和四年拾月拾日

四年十月廿九日

附 屬 書 庫

普通 第一 号 札

昭和

昭和四年拾月拾日 附

附 屬 書 庫

通

受 信

八尾市 市役所

受 信

外務省 情報部

人 名

九木 重光 氏

人 名

外務省 情報部

件 名

邦人 重光 氏 回 信

名 込

支那内乱 情報部

地方 情報部

(無 用 紙 書)

邦人 重光 氏 回 信 十月 廿九 日 發 送 済

八尾市 市役所 重光 氏 回 信 十月 廿九 日 發 送 済

八尾市 市役所 重光 氏 回 信 十月 廿九 日 發 送 済

公 信 案

外

體狀是女曰清、ハルクニ遊雅最上ハ知多能、
 其同地上留知人一同云ニ廿二日景和勢讀、
 陸戰陽軍艦ハ別獨合時、
 二付法尋試、
 海兵大休涉安ハ市本差支、
 光代、
 其相本、

文書課長

文書課發送

昭和四年拾月拾日發送済

正(原稿) 謄本 (印書)

主管

情報部

主任

情報部第一課長

報一

普通部

三十九

昭和四年

昭和四年拾月拾日

日附

附屬書一通

受信

出書部

人名

鈴木健

發信

人名

性根部

件名

鈴木健の住所を問ふ件

名込証

本件は、鈴木健の住所を問ふ事、其の旨を以て、右証状同人、今

交、上、右証状同人、天野達何、外、後、田、香、市、中、探、知、者

鈴木健の住所を問ふ件

4012.13
131.164

23.40.1

92

公信案

外務省